ご	参	考						
	2008		年	度	活	動	一	覧

■ 分科会

- システム技術分科会
- 研究教育環境分科会
- 科学技術計算分科会
- 合同分科会

■ WG

■ 委員会

■分科会活動

システム技術分科会

2008 年度 第 1 回会合　Web システムのセキュリティとアウトソーシング

➢ 2008 年 8 月 26 日(火) 13:20～17:30 ／ 汐留シティセンター

- 教育・研究分野のストレージソリューションに期待するもの
  ーデータマネジメントを意識したストレージソリューション WG 成果報告ー
  中京大学　磯 直行
- マルチコア化 CPU の傾向と対策
  (株)富士通研究所 IT システム研究所　久門 耕一
- 大学・研究所における Web アプリケーションのセキュリティ
  ー「守るべき情報を持たない」Web サイトにおけるセキュリティの在り方ー
  (株)ソフテック　芝田 幸彦
- 日本大学における SaaS の導入　掲載
  ーGoogle との協調による「NU-AppsG」の導入経緯・運用についてー
  日本大学総合学術情報センター　吉田 誠、相川 成周

2008 年度 第 2 回会合　組織と認証 ～誰を認証すべきか～

➢ 2009 年 1 月 29 日(木) 12:50～17:45 ／汐留シティセンター

- セキュリティマネージメント WG 活動報告
  ーアカデミック機関でのセキュリティマネージメント BCP(ベストカレントプラクティス)ー
  高エネルギー加速器研究機構　湯浅 富久子
- 私は誰？
  ー組織、そしてサービスから見た認証と UPKIー
  京都大学学術情報メディアセンター　岡部 寿男
- キャンパス無線 LAN における認証連携と国際ローミング基盤 eduroam
  東北大学農林サイバーサイエンスセンター　後藤 英昭
- 日本最大規模のキャンパス認証ネットワーク　掲載
  ～HINET2007 の構築と運用～
  広島大学情報メディア教育研究センター　西村 浩二
- 増えるシステム、認証管理をどう軽減するのか？
  ー福岡大学における統合認証 ー
  福岡大学総合情報処理センター　奥村 勝
- 組織の壁を越える利用者グループ概念の導入　掲載
  ～農林水産研究における新しい認証基盤～
  農林水産技術会議事務局筑波事務所　宮坂 和孝

合同分科会 代表報告

➢ 2008 年 10 月 23 日(木) ／ リーガロイヤルホテル京都

- グリーン東大工学部プロジェクト
  － ICT を用いたグリーンキャンパスに向けた取り組み －
  東京大学大学院情報工学系研究科　江崎 浩

掲載は本冊子に原稿が掲載されています　　ー敬称略ー

研究教育環境分科会

2008 年度 第 1 回会合　教育の手法とその効果

➢ 2008 年 9 月 1 日(月) 13:30～17:40 ／ 汐留シティセンター

■ 理解を深めるクラスルーム型授業の課題と提案
ー教育の質の向上 WG 成果報告ー
明治大学　阪井 和男

■ PBL 問題解決型授業事例報告　掲載
甲南大学情報教育研究センター　井上 明

■ 項目応答理論を使った学生の能力推定とそれに対応した教材選択手法の開発
福井県立大学学術教養センター　山川 修

■ KIT ポートフォリオインテリジェンスによる大学院教育の実質化
金沢工業大学情報フロンティア研究所　中沢 実

2008 年度 第 2 回会合　教育現場の学習コミュニティ

➢ 2008 年 10 月 22 日(水) 13:30～17:30 ／ リーガロイヤルホテル京都

■ 関東学院大学・工学部における SNS と e-Learning を融合した入学前準備教育
関東学院大学　千葉 敏雄　掲載

■ 高度 IT 技術者のための英語コミュニケーション・スキルアップ戦略
神戸情報大学院大学　田村 武志

■ インターシップと能力開発・人材育成：その可能性と実践展開
ー「V インターシップ」のコンセプト/システム開発および実践事例ー
京都産業大学　井上 一郎

■ 外部サービスを利用した学生向け生涯メールサービスの提供について
鹿児島大学　下園 幸一

懇談会　メールサービスの裏話

➢ 2008 年 10 月 22 日(水) 19:30～21:30 ／ リーガロイヤルホテル京都

コーディネータ：東海大学　及川 義道
話題提供：一橋大学　高見澤 秀幸

合同分科会 代表報告

➢ 2008 年 10 月 24 日(金) ／ リーガロイヤルホテル京都

■オープンコースウェアの現状と展望　掲載
慶応大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構　福原 美三

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

科学技術計算分科会

2008 年度 第 1 回会合

HPC フォーラム 2008
ペタスケール･アプリを支える基盤技術

➢ 2008 年 8 月 27 日(水) 10:30～17:20 ／ 汐留シティセンター

海外招待講演

■ High-Productivity Languages for Peta-Scale Computing 掲載
Hans Zima Principal Scientist, Jet Propulsion Laboratory, California Institute of Technology, Professor Emeritus, University of Vienna, Austria

■ アプリケーションとアーキテクチャ 掲載
工学院大学 小柳義夫

■ ペタスケールシステムへの並列プログラミング言語の課題
－並列言語検討会からの中間報告－
筑波大学 計算科学研究センター 佐藤三久

■次世代 HPC における大規模データの可視化環境
理化学研究所 小野 謙二

■ 富士通のペタスケール･コンピューティングに向けての取り組み
富士通(株)次世代テクニカルコンピューティング開発本部 追永 勇次

2008 年度 第 2 回会合

新時代のHPC技術

➢ 2008 年 10 月 22 日(水) 13:30～17:50 ／ リーガロイヤルホテル京都

■ SPEC in a New Era
Matthijs van Waveren Director of SPEC, Fujitsu representative to SPEC, OpenMP ARB, Fortran WG, Fujitsu Systems (Europe) Ltd

■ T2K オープンスパコン：新たな運用法と新たな連携
京都大学 中島 浩

■ アクセラレータ技術の現状と今後
九州大学 村上 和彰

■ 高性能低消費電力プロセッサを実現するアーキテクチャ技術
東京大学 中村宏

■ ハイエンドテクニカルコンピューティングサーバ FX1 について
富士通(株)ソフトウェア事業本部 青木 正樹

懇談会

超並列時代のプログラミング

➢ 2008 年 10 月 22 日(水) 19:30～21:30 ／ リーガロイヤルホテル京都

コーディネータ：九州大学 青柳 睦
話題提供：国立天文台 水本好彦、 筑波大学 朴泰祐、 富士通(株) 山中栄治

合同分科会

代表報告

➢ 2008 年 10 月 24 日(金) ／ リーガロイヤルホテル京都

■ 数学 4 千年の歴史を化学の目からイノベイトする
－ ピタゴラスの三角形とトポロジカルインデックス－
お茶の水女子大学 細矢 治夫

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

合同分科会

2008 年度会合	ICT 社会を支える人"財"像

➢ 2008 年 10 月 23 日(木) ～ 24 日(金) ／ リーガロイヤルホテル京都

基調講演
■ 時代を先取りする商品イノベーションの実現
トヨタ自動車レクサスセンター　定方 理

特別講演
■ 富士通研究所のイノベーション
富士通研究所　村野 和雄

システム技術分科会代表報告
□ グリーン東大工学部プロジェクト　掲載
－ICT を用いたグリーンキャンパスに向けた取り組み －
東京大学大学院情報工学系研究科　江崎 浩

討論会セッション「イノベーション今昔物語」

[開催趣旨説明]
■ 討論会「イノベーション今昔物語」の開催にあたって
九州大学情報基盤研究開発センター　天野 浩文

[話題提供]
■ イノベーションの理
明治大学法学部　阪井 和男

[話題提供]
■ イノベーションの技　－らくらくホンの開発－
富士通(株)モバイルフォン事業本部　新山 学

[話題提供]
■ "Suica"が世界を変える!　－IC 乗車券(Suica)がもたらすイノベーション－
東日本旅客鉄道 IT・Suica 事業本部　椎橋 章夫

[話題提供]
■ イノベーションの種　－種は水をやらねば育たない－
立命館大学研究部　野口 義文

■ パネルディスカッション「イノベーション今昔物語」
コーディネータ：九州大学情報基盤研究開発センター　天野 浩文

教育環境分科会代表報告
□ オープンコースウェアの現状と展望　（掲載）
慶応大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構　福原 美三

科学技術計算分科会代表報告
□ 数学 4 千年の歴史を化学の目からイノベイトする
－ ピタゴラスの三角形とトポロジカルインデックス －
お茶の水女子大学　細矢 治夫

30 周年記念座談会
■ SS 研の未来を語る
司会：宇宙航空研究開発機構　福田正大
パネリスト：京都大学　岩下武史、 高ｴﾈﾙｷﾞｰ加速器研究機構　真鍋篤、
一橋大学　高見澤秀幸、 富士通(株)　堀田耕一郎、 林直樹

□：他分科会の企画

掲載は本冊子に原稿が掲載されています

■WG 活動

教育の質の向上研究 WG [2006 年 9 月～2008 年 8 月] 終了	
	理解度とは何かについての本質的な検討を含む受講者の理解度向上についての検討･研究を行うことで、新たな手法を見出し、実験を交えて、知見を得、ノウハウの共有を図る。
セキュリティマネージメント WG [2007 年 2 月～2009 年 2 月] 終了	
	セキュリティ担当者に有用な情報を提供することを目的に､先進的なセキュリティ対策と実用的なセキュリティ対策を 2 本の柱として検討する。技術的な話題に閉じず、組織論などを含むセキュリティマネージメントのノウハウの共有も目指す。
HPC 技術 WG [2007 年 5 月～2010 年 5 月(予定)]	
	″HPC マシン性能追求のための技術″を全体テーマとし、適宜サブテーマとその活動メンバを設定して検討を進める。
Grid Computing 検討 WG [2007 年 8 月～2009 年 8 月(予定)]	
	広く Grid 技術の動向調査と情報共有を行う。また、Grid Middleware を実際に動作させ、その経験に基づいて Grid 技術のあり方を検討し、センター等における Grid のメリットについて検討する。 これらの活動により、会員間での Grid 技術活用の目的を明確化し、問題点があればその解決を図る。
大規模ストレージ WG [2009 年 1 月～2010 年 12 月(予定)]	
	情報処理性能の飛躍的な向上による科学技術計算の大規模化や､情報処理システムの入力元となる観測機器および測定機器の高精度化により､入出力データの大規模化は加速度的に進んでいる。今後もデータの大規模化は一層促進していくと考えられる。CPU の種類や構成が多様化する中で､特に大規模データを扱う計算機システムを効率的かつ有効に利用するためには、ストレージの性能・構成・運用方法などを最適にすることが大きな要素のひとつとなっており、明確な設計指針が求められている。このような状況を踏まえ、大規模データを扱うシステムにおいて、限られた予算でより効果的なストレージ/IO システムを選択するための検討および効率的な運用を行うために必要な管理機能の検討を行う。

終了 WG は成果報告書が作成されています

■委員会活動

ニュースレター編集委員会	
	会員活動報告データであるニュースレターを編集するにあたり、内容の吟味、最終校正を実施。また、ニュースレター選集、ニュースレターCD-ROM 版を発行する。
SS 研活動推進委員会	
	SS 研活動における成果等､SS 研の情報の効果的活用による SS 研のより発展を目的に、成果の発掘整理やシステムおよびツールの開発整備を行い､必要に応じて本活動に関連する事項の調査、提言を行なう。

編集後記

ニュースレター編集委員会
委員長　　鈴木 富男
(理化学研究所)

このたび、2008年度のSS研分科会活動の総集編とも言える「SS研ニュースレター選集」第9巻を発行いたします。村上会長の巻頭言でも触れていますが、本号からは会員以外の方にも広くご覧いただけることとし、さらに、ISSNを取得し毎号国会図書館に納めることとしました。これまで行われてきたニュースレター選集の新たな展開についての議論が結実した結果と嬉しく思っております。

SS研究会は2008年度に発足30周年を迎えましたが、この「SS研ニュースレター選集」はSS研の成果であり、足跡でもあるわけで、その時期のホットな話題を中心に纏めております。今回も内容的に充実したものをお届けするということで、ニュースレター編集委員会では、以下のような方針で編集いたしました。

◆掲載原稿：

システム技術分科会、教育環境分科会、科学技術計算分科会、合同分科会から選定された発表原稿。

ただし、これとは別にニュースレター編集委員会の判断で原稿の追加掲載もあるものとする。

◆掲載原稿の選定：

各分科会の企画委員に、原則として以下の編集方針のもとに選定をお願いいたしました。

(1)　掲載原稿選定基準

- 以下の内容のもの
  - 当該分科会のメインテーマにマッチした内容である
  - 社会/業界の状況に対して、タイムリーな内容である
  - SS 研内あるいは一般に、広く通用する技術等が含まれている
  - オープン扱い(Web サイトで認証のないページに掲載)の原稿である
- アンケート結果はあくまで参考資料とする。但し、その重みづけは各分科会に一任する。
- 合同分科会の分科会代表報告は、合同分科会側と、当該分科会側の両方に選定の権利があるが、分科会側の選定が優先する。
- 富士通の製品発表は対象外とする。

また、分科会は上記とは別枠で、関連WGの発表資料からも掲載原稿を推薦することができる。推薦された原稿は、ニュースレター編集委員会で検討の上、掲載を決定する。

(2)　選定数

- 各分科会ごとに、2008年度の活動から2件を目安とする。ただし、合同分科会については「選定なし」を可とする。

掲載原稿の選定では、各分科会の企画委員の皆様に多大なご協力をいただき、無事発行できましたことは、編集委員の一人として、感謝の念に耐えません。この場をお借りして、厚く御礼申しあげます。

本冊子が、会員の皆様の日々の活動に役立てば、望外の喜びとするところです。

＝ 2009 年 4 月 ＝

2008 年度ニュースレター編集委員会

編集委員長	鈴木 富男	（理化学研究所）	
編集委員	三科 淳	（高ｴﾈﾙｷﾞｰ加速器研究機構物質構造科学研究所）	
	藤田 直行	（宇宙航空研究開発機構）・・・・・・・・・・	［システム技術分科会 担当］
	中西 通雄	（大阪工業大学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	［教育環境分科会 担当］
	青柳 睦	（九州大学情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ）・・・・	［科学技術計算分科会 担当］
	高見澤秀幸	（一橋大学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	［合同分科会 担当］
	相澤 広	（富士通(株)）	

サイエンティフィック・システム研究会
Scientific Systems

ニュースレター選集 vol.9　2009 年 5 月 22 日発行

発行　サイエンティフィック・システム研究会

編集　2008 年度ニュースレター編集委員会

お問合せ　サイエンティフィック・システム研究会 事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2
TEL:03-6252-2582、 FAX:03-6252-2934
E-mail:ssken@ssken.gr.jp
Webサイト http://www.ssken.gr.jp/MAINSITE/index.html

※　著作権は各原稿の著者または所属機関に帰属します。無断転載を禁じます。